

★神戸の催し物ご案内 12月

〈音楽〉

★甲斐バンド

3日(月) 6時半 神戸国際会館
S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円
B・一六〇〇円

★カズミ・ケランドオケストラ

5日(水) 6時半 神戸国際会館
S・三八〇〇円 A・三〇〇〇円
B・二五〇〇円

★エンリコ・マシアス

7日(金) 6時半 神戸国際会館
民音/会員 一五〇〇円

★奥田暲ナポリを歌う

9日(日) 3時 神戸文化ホール
一〇〇〇円

★八代亜紀

9日(日) ①1時 ②5時 神戸
国際会館 S・四〇〇〇円 A・
三〇〇〇円 B・二五〇〇円

★WIDE WIDE JAZZ



渡辺 貞夫

15日(土) 4時 16日(日) 2時
神戸文化ホール B・三〇〇〇円
A・三八〇〇円 C・二五〇〇円

★ダーク・タックス

18日(火) 6時半 神戸国際会館
S・三〇〇〇円 A・二四〇〇円
B・一八〇〇円

★永井龍雲

19日(水) 6時半 神戸文化ホ
ール A・一八〇〇円 B・一五
〇〇円

★第九交響曲



LOVE WORLD

★ワールドの歌 10名様に差し上げます
ファッションメカ、ワールド提供
のFM番組「ワールド・オブ・エレガン
ス」のテーマソング「ラブ・ワールド」
のLP化。演奏/R・ルフェーブル
ご希望の方は、葉書で神戸っ子編集室
「ワールドLP」係まで。提供/樹ワ
ールド

21日(金) 7時 神戸文化大ホ
ール 民音/会員 二五〇〇円 一
般 A・三〇〇〇円 B・二五〇〇
〇円

★宮本慶子マリノバの夕べ

26日 6時半 神戸文化ホール
一三〇〇円

★第九交響曲



朝比奈 隆

22日(土) 7時 神戸文化大ホ
ール A・三〇〇〇円 B・二五〇
〇円 C・二〇〇〇円

★クリスマスをデキシーで

23日(日) 1時 ラジオ関西C
ホール 一五〇〇円

★第九交響曲

25日(火) 7時 神戸文化大ホ
ール

指揮/外山雄三、演奏/大阪フィ
ル 独唱/立原ちえ子、成田絵智
子、丹羽勝海、池田直樹
音楽友の会/会員 A・二七〇〇円

●愛読者招待席

神戸っ子読者に左記の催し物にて
招待いたします。(10名)

★永井龍雲

12月19日(水) 6時半 神戸文化
ホール



永井 龍雲

●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のステージを
割引優待いたします。

★WIDE WIDE JAZZ

12月15日(土) 4時 16日(日)
2時 神戸文化ホール

出演/15日・ネイティブサン、鈴
木勲&ニューファミリー、阿川泰
子、スイングオールスターズ、山
下洋輔3、喜雄とデキシーランド

16日・外山雄三、渡辺とデキシーラ
ンズ、渡辺香津美G、スーパ
ーサックス・インコウベ、中本マ
リ、安藤義則G、山本剛3、渡辺
貞夫5

★第九交響曲

12月22日(土) 7時 神戸文化大
ホール

指揮/朝比奈隆、大阪フィル
独唱/岡田晴美、井上和世、西垣
俊朗、三室英

★宮本慶子マリノバの夕べ

12月26日(水) 6時半 神戸文化
ホール 一三〇〇円を一割引

ご希望の方は電話か葉書で神戸っ
子編集室優待係八川鏡彦まで

★市民映画劇場「サイド」
12日(水) 14日(金) 6時半
15日(土) 2時 神戸文化小ホ
ール 四九九円



久野綾希子

★劇団四季「ジザス・クライスト
スパー・スター」
鹿賀 丈史 滝
田英

★東京キッドブラザース
「哀しみのキッチン」
出演/鹿賀丈史、久野綾希子、滝
田英、光枝明彦ほか

2日(日) 3時 神戸国際会館
S・四〇〇〇円 A・三〇〇〇円
B・二〇〇〇円

11日(火) 6時半 神戸国際会館
S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円
△その他

★市民映画劇場「サイド」
12日(水) 14日(金) 6時半
15日(土) 2時 神戸文化小ホ
ール 四九九円

海軍めしたき兵 敵國上陸

〈もうさんが見たニューヨーク〉

高橋 孟



私が海外旅行をする。しかも行き先がアメリカと聞いて、

「へえ…孟がねえ…」

「さぞや珍道中になるだろうなア」

と、珍しかったり、面白かったりしていたようだ。又、

「孟はアメリカという柄じゃないなア」

「せいぜいアフリカか東南アジアやなア」

と言わんばかりである。まるで「発展途上人間」扱いである。発展途上にある人間には違いないが、出発前の数日間は、旅なれた友人がそれで

も親切？にいろんな事を教えてくれた。

「ニューヨークに行つて、高いビルに見とれると財布が無くなるぞ」

「パスポートはいつも身につけとらんといかんだ、カバンに入れといったら、置引きにやられたら帰って来れんぞ」

「金はポケットに分散しとかんと暴力スリにやられるぞ」

「エレベーターに乗つて、うっかり内ポケットに手を入れないきなりピストルで殺られるぞ」

「タクシーはうっかり乗るな、ぐるぐる回られ

るぞ」

と、まあいろいろ聞いていたら、教えてくれるのか脅かされているのかわからなくなってくる。それでもメンパーが、田辺聖子さん、カモカのおっちゃんと通訳ガイド役の竹田の洋ちゃんだから心強い。コースは、ニューヨーク・ロサンゼルス・サンフランシスコを十七日間の日程。ガイド役の洋ちゃんが、十七日間の旅だからというのでメモしてくれた通り、「ワイシャツ七枚、下着七着、スーツ二着、ネクタイ四、五本、靴下十足、カメラ、画材、靴一足、洗剤、チリ紙、コート」など、トランク一杯詰め込んで、自分はというと、サフアリアルックに腹巻き、という出立ちで、エッチ

ラコッチラと、伊丹空港へと出かけた次第。

文芸春秋社の好意で、私も、PANA Mのファーストクラスの旅客となるのだが、なんせ初めて乗る国際線、目の前に見る機体の大きさに、よくもまあこんな大きなものが空を飛んでいるものと、今更ながら不思議に思ったり、機体が思ったより汚ないので、整備に手落ちがあったりして落ちやしないかと心配したり、シオルダーバッグのカメラと、腹巻きのパスポートを押えながら「エクスキューズ・ミー」「サンキュー」と、洋ちゃんと並んで私は窓際に坐った。

ファーストクラスは私達パーティーだけが日本人で、あとは外人ばかり(この場合こちらの方が外人なのだが…)。

かつて私が海軍で戦った「敵国」へ初めて旅行するのだが、このPANA M機に乗ったとたん、いきなり敵国に来たような気がした。

今の若い人達と違って、特に英語の出来ない私などは「外人」には身構えてしまうところがあり、比較的気さくに振舞えるところのある私も、いざとなるとやはりダメ。

一緒に乗っている「外人」に話しかけら



アメリカは大きい 何でも大きい



左は金門橋を背にカモカのおっちゃん、田辺聖子さんと竹田洋太郎氏と孟さん。
上は、ハワイのワイキキビーチで。



左下はRCAビルディングのレインボールームで気嫌の竹田洋太郎カモカのおっちゃん。お聖さん、孟さん。(左より)。右下はディズニーランドで童心に帰ったカモカのおっちゃんと孟さん。



初めての米国上陸.....



こんな大きな国と戦争したナンテ。

れはしないかとビクビク「アイ・キャン・ナット・スピーク・イングリッシュ」をいつでも喋れるように用意しながら恰好はいかにも悠然としているより仕方がない。隣りに通訳さんがいたとしても、そうそう何もかも即時通訳というわけにもいかないのだからやっかいだ。やがて水平飛行に移って、窓を見たが、夜の太平洋は何も見えない。見えるのは窓ガラスに写る、黄色人種の自分の顔だけである。機は太陽に向かって飛んでいる理屈だから時間が経つのが早い。スチュワードスが現われ、座席毎に何かを配って来る。食事のメニュー



アメリカは大きい。何でも大きい。

ーである。これが又大きい。私にしたら読めないものだが、読んでいる振りをするのも意味がない。

「洋ちゃん何にする。これは夜食なの夕食なの」

と聞いたら「夕食らしい」という。出発前カツ丼を食べて何時間も経っていない時刻だから空腹感などあるわけもない。

洋ちゃんがローストビーフにするというから、私も、と、いうわけで、注文を取りに来たスチュワードス嬢に私は洋ちゃんに続いて英語で注文をした。それは、かねてから用意していた「セイム」という英語である。スチュワードスは、「OK」といってニコリ笑ったので、以後、私は、アメリカ旅行中、終始、この、「セイム」という「料理」を基本的に食べて来たのである。ところが、出て来たローストビーフが、これ又大きい。とてもじゃないが食べられそうにない。よくもまあこんな大きなものをこの人達は食べているなアと驚く。また、大きな皿に盛り上げられた野菜サラダがウサギの餌ほどもある量なのでこれまた、胃袋の小さい私などはウンザリした。

かつて、私は海軍のめしたき兵だった頃、麦めしと味噌汁を炊いていたので、

「これでは戦争に負けるのはあたり前だなア」と、つくづく思ったのでありました。

× × ×
アメリカは大きい。

何でも大きい、自国内で時差がある国だから。そして、人間も大らかである。出発前に、さんざ、脅かされていたニューヨークの街も「百聞」

に反して親切な人達ばかりなのでかえって驚いたのである。

着いた日の翌日、四人でセルフサービスの大衆食堂に行ったとき、

「スプーンやフォークに何処かなー」

といっていたら、すかさず、

「スプーン」といって肥った大きなおじさんが私達のテーブルへ運んで来てくれた。一同「サンキュー」と言ったが、てっきり従業員だとばかり思っていたおじさんが、そこに居合わせた隣のテーブルの客だったことに気付いて、また一同は、

「オー・サンキュー・ベリマツチ」となったのである。日本語がわかる筈がないのだが、それと察したらためらわず手助けしてくれる気さくなところがある。心も大きいのが、四人組が、同じ宿泊するならというところで、「体験宿泊」の意味をかねて、とったホテルはプラザ・ホテルのそれも、シャンデリアの輝くスイート・ルームの応接室のついた一等室である。なんでも大きいアメリカは、ホテルのドアも大きく、そして重い。手に何かを持っていたりすると片手では押せず、ウンコラショと肩で体当たりしなければならぬ。クラシックな建物は頑丈に出来ていて、足の短い私などは、ガリバー旅行記の小人の国から来たようなものだ。私は、重いドアを押しながら、戦争中の特攻隊の体当たり作戦を思い出し、

「これでは戦争は勝てっこないなア!」

と、また思った。部屋も、これ又、広く大きく、バスルームの湯舟もまた大きくゆったりしたものだ。私はどうしても、アメリカ生活になれた洋ちゃんのように、シャワーで済せないので、大きな

湯舟にたっぷりと体をひたし、タオルを頭に置きたい方だから、六十年ぶりの寒波とかで昼の雪の降るニューヨーク市内見学で冷えきった体を温めていたらウトウト眠ってしまっ、大きな湯舟ですんでのところで溺死するところであった。

酔っていた私はビックリ驚天、滑り止めのゴムのシートが無かったら、顔までつかってしまつて湯を飲んでいたらとこである。日本のホテルなら足が充分つかえるところだが、なんせ、なんでも大きいので困ったものだ。トイレにしても、部屋にあるものは洋式(当り前だが)なので小便もやりやすいが、ロビーの小便専用の男子便所はいけない。足が短いといって爪先立つわけにもいかないし、オーバーに言う、大砲の仰骨を上げなければならぬ感じである。そこで、また、

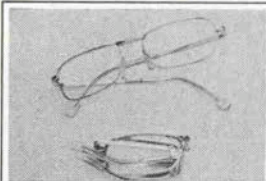
「これで戦争に勝てなかつたんだなア」
と、またまた思った。

なんでも大きいアメリカをニューヨークに着いたとたん感じた私は、短い背筋を出来るだけ伸ばして歩くように心掛けたが、ビルは大きく高く、街を行く人は背が高い、いくら悠然と歩いてみても、虚勢を張った「めしたき兵」でアリマシタ。

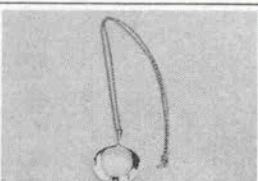


●孟さんの陶板画(ニューヨークから帰った直後の11月8日、13日。陶芸家の友人、和田石塚田さんの開展が神戸大丸で開かれ、郷愁の陶画)。と銘打って孟さんが陶芸にアタック。和田さんも学徒出陣で中国河南の黄土を駆けり、洛陽郊外で兩大腿部貫通と腰下2カ所に弾片つきさされ、フカにかまれた孟さんに劣らぬ勇士。その和田さんの故郷のような陶器に孟さんが絵を描いた。海軍めしたき兵の表紙絵の壺は売りたいので10万円だった。でもホントに買い手がいなければ、そら売リマス売リマス。

これは便利！ 今、欲しいものは！



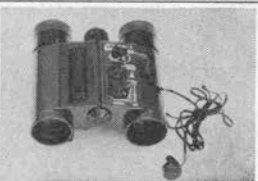
折りたたみ式めがね
折りたためば3~6cmの大きさ。
持ち運びに便利。



ペンダントグラス
優れた光学レンズを使用し、老眼鏡
の役目をするオシャレなペンダント



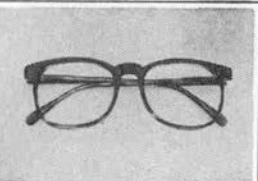
天体望遠鏡
月面クレーター、土星の環も見える
夢の宇宙へ



ラジオ付双眼鏡
野球を観戦しながらラジオ中継を



スタンドケース
めがねを置き忘れて踏んだりしない
めがねケース



ヤングフレーム
今、若い人に人気。ホストン型メガ
ネでイメージチェンジを。

●掲載以外にも各種ご用意いたしております

 **神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです

三宮店は第2、第3水曜日がお休みです

★
今年もユーハイム・コンフェクトの

クリスマスケーキで楽しいイブを… ★



¥1,000より各種

北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市灘台区熊内町1-8(南宝美術館東隣)TEL 221-1164

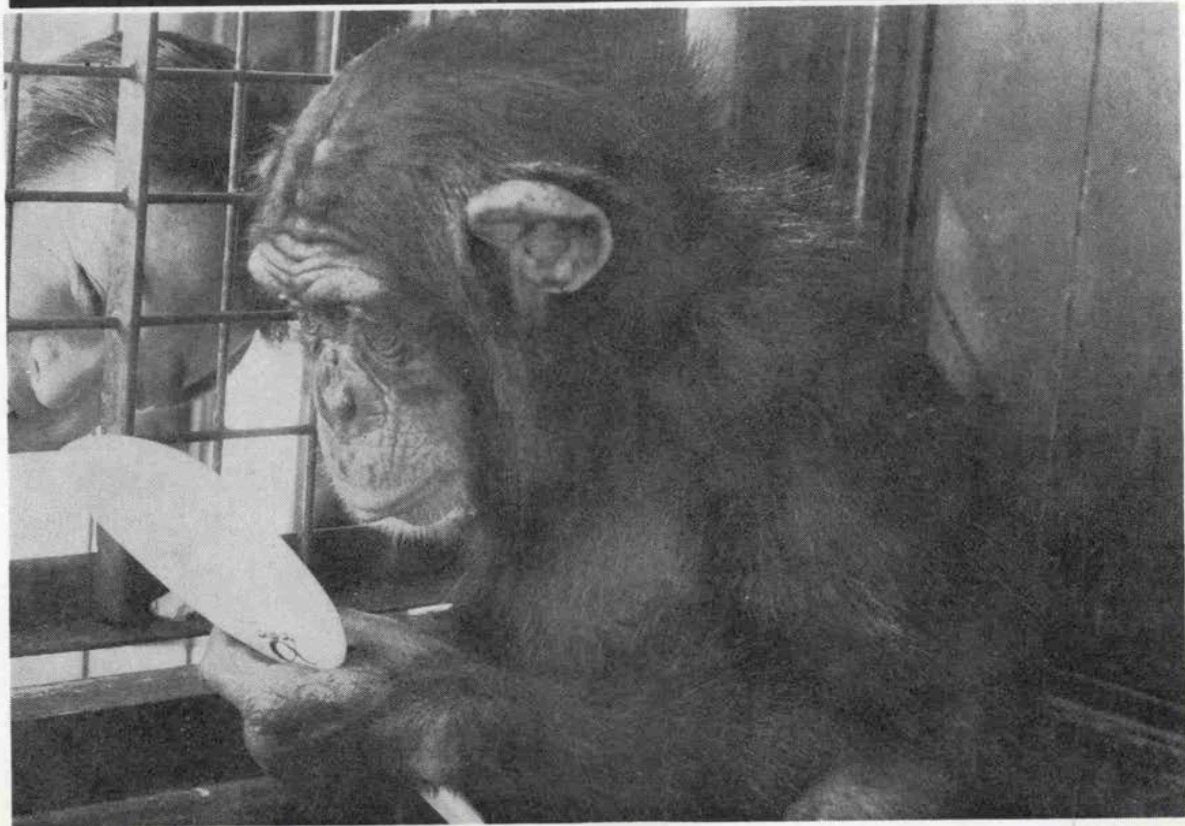
■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・神戸アパルト・元町店



動物園飼育日記 — 〈169〉 — 亀井一成



愉快な類人猿の髪型！



開園以来30年、いまだに動物園の厄日が写生日であることご存知だろうか。長さ30センチ、学生たちがふつうに使う絵筆をどう間違えたのか、あのペリカンが喉にひっかけ、まるで帆掛船のように絵筆が喉の皮膚をひきつり、もがき回っているところを見つけたのも写生会の屋さがりだった。さらにまた、絵具チューブを口に、その甘さに誘われ、まるでチョコレートのように食べてしまったチンパンジーの神ちゃん。それに幾ら食べても、すぐ嘔吐してしまい瘦せ衰えて死んでしまったペンギンの胃の中からもチューブの絵具と画紙が出てきた。

写生のさなか、あやまって画用紙が野生ひつじ、パリシープの中に落ちこんだ、あれよあれよと思うまに食べてしまった。その腹いせに石を投げつけていた中学生の集団。いやはや、まだまだありますぞ！

獣舎の屋根から公衆トイレの屋上にまであがりこむ、ゴミカゴを横たおしにイス代り、コンクリートブロックにレンガ、板切れ、ダンボール箱、ありとあらゆるものを、園内のどこからでも探し出しては使えばなし、とにかく、午前中の作品製作中のいたずらは、先ず見当らないが、絵画の終わった昼すぎ頃から、いたずらはじまる。余った絵具水をサルや鳥たちにまでひっかけてるやつ、せっかくの説明板に落書きをする。ワニやヘビ、ペンギン冷房室のガラスにも書き回っている。

そうこうするうち、帰校の時間、集合の呼び出しがかかったら、もう、あと片づけなどそっちのけ、早々に帰ってしまふ。まるで学生台風の過ぎ去った跡である。

ちよつとひと言、入園前の注意がどれほど効果があるか、絵画注意の集合時、ある中学校の知人の先生にマイクを借りた私「飼育係のお願いです」と、よろしくお願ひしたその日の写生会、おどろくほど静かで、しかも集合前の五分間を、あとかたづけにと号令がかかった。やればできるんです。お礼をいいたくなかったことでした。

さて、そうしたいはずら写生会の作品を見て、ちよつとひと言、申し上げたくなる人が多い。年2度の園

内作品展示会に目をとおすうち、ふと、気づいたのが動物たちのヒヅメの数だった。奇数のヒヅメを持つ馬組を「奇蹄類」、偶数のヒヅメの牛組を「偶蹄類」とよび分ける。幾ら作品的に優秀でも、サイのヒヅメが3本であること、カバが4本であること、その数のちがいを見逃がしてしまつて作品に金賞や銀賞があたえられているのだから、私も、まあ、そんなものかいなと思つてしまふ。

とにかく、動物たちの生態と同時に、身体の仔細な観察力をも評価すべきではなからうか、肢や身体の動きをたくみに捕えて書き出されているすばらしい表現力の作品が、たった一本のヒヅメの数が、一本の毛なみがちがつていたのでは、動物のさし絵としては、全くの失格である。

キリンとシマウマとでは肢の運び方、すわり方が全くちがう。角にしても、シフゾウとニホンジカでは、枝角が全くの逆になっている。それにはばたく鳥の羽の重なり方、ダチョウやツルの肢の関節のちがいが。

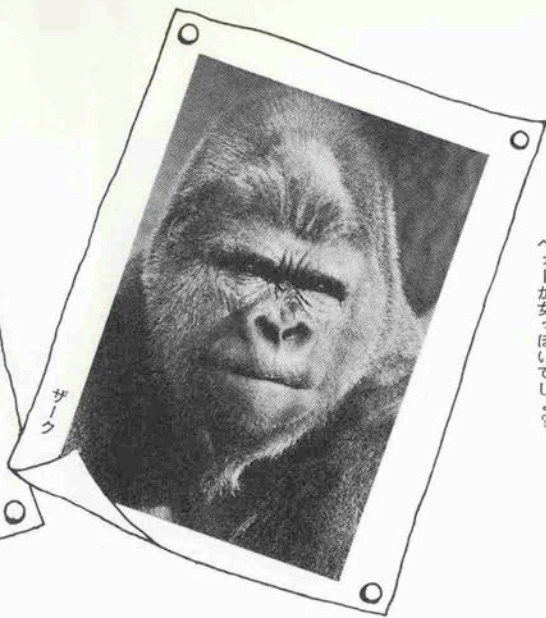
さらに、また、こんな愉快な毛なみの髪型があることご存知だろうか。

ふつう四肢動物の毛は、雨合羽の役目もあるので毛は背中より肢の先、つまりヒヅメに向つて、つまり、下に向つて密生している。だから、雨は皮膚をぬらさず流れ落ちてしまふふうになっていると解してよいだろう。

シロクマ、ライオン、トラ、シマウマ、キリン、ヒツジ、さらにニホンザルもマントヒヒも、クモザルもオマキザルも、みな被毛は下向きに生えている。

ところがである。人間に近い、類人猿、チンパンジー、ゴリラ、オランウータンなどを画いた作品に、こうした、毛の流れをあやまって画かれていることによく気づく。みなさん、じっくり見て下されば、お分りになるはず、肩からヒジまでは下向きの毛も、ヒジから下は逆に上向き、つまり逆毛に生えていることだ。これは、二足歩行への進化がもたらした結果だという説、つまり立ち

△アースタイルのバリエーション
 △右▽りしく、オールバックがよくお似合い
 のゴリラのザーク君
 △左▽オランウータンのネネちゃん、ロング
 ヘアーが女っぽいでしょ？



ザーク



ネネ

あがり、最も大切な頭の脳を本能的に守ろうと頭を両腕でかかえこむ。さらに赤ん坊の時代両手を握りしめ折りまげている。そうした折り腕の毛なみは逆毛の方が適している。こう解する説もある。何れにしても、被毛一本一本の生え方に仔細なちがいがあがる。ちよつと、我々人間の体毛の流れを一度見て頂きたい。両腕の毛が、まさしく、ひじから下は逆になっていることチンパンジーやゴリラと同じであることお分りになるはずである。さらにまた、頭髪にも、なるほど愉快なちがいがあがるじゃありませんか。

体重285キロ、我が国ではゴリラのヘビー級チャンピオン。しかもハンサムときているザーク君、の眼鼻をじっくり見て頂きたい。うすいとはいえ、立派に鼻毛もあり、二重いや三重まぶたに生えてる、まつげの長いこと、それに上下にカールしているのも人間と少しも変わらない。頬から、顎にかけては毛を下向きに生えている。ところが、このゴリラのザーク君の頭髪、よく見ると後ち向き、つまり「オールバック型」である。

それじゃ、二番めに大きいオランウータン、人間の少女にそっくりの「前だれ型」ではありませんか。10mもある高い樹上生活の彼等、頭に木の葉や枯草をかぶって、スコールをしのぐ、そうした際「前だれ髪」が適しそうだ。地上で樹林の間を駈けるゴリラは「オールバック」の髪が適すだろう。さらに、チンパンジーがまた、おしゃれと見えて「セクター分け」という髪型だから、思わず、ふきだしそうになった。

ところで、脱毛と新生をくり返している人間の頭髪は終生のび続ける。チンパンジーやゴリラは、ある一定の長さで脱け新生をくり返しているの、同じ髪型を終生保っている。しかし、オランウータンは脱毛しにくいと見えおどろくほど長くのび、手入れをしない野生の老オラン君、すごい毛玉を作っているものさである。ともかく彼等には若ハゲが見られないのも事実である。

△王子動物園学芸員／写真も▽

こんにちは赤ちゃん



吉田 泉ちゃん/神戸市東灘区

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大栴町1番18号
芦屋市民センター(ルナホール)東南
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

幼児歯科 小児歯科

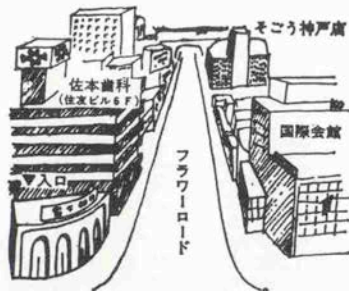
SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分
金曜日 午後1時30分
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階
〒650 生田区加納町5丁目39
TEL (078)331-6302~3



六甲山100コース

△その27▽
バス停屏風辻―屏風谷―天下辻―神鉄大池

六甲最後の秘境、屏風岩

室井

綽△姫路学院女子短期大学教授・生物▽



屏風谷にて筆者（右側）

この秘境を訪ずれるには、国鉄神戸駅南口発、神姫バス「天神行き」で「屏風辻」で下車、西へ下って川沿いを登る。そこから屏風谷の流れに沿って、かつての六甲の自然を頭に描きながら「天下辻」（二五二メートル）へ向う。そして帰途は神戸電鉄「大池」へ出る。登山は必ず地図持参、山になれない人は歩行も地形的にも危険なコースで道を聞く人も登山する人も少ない。屏風岩は、帝釈山の北側で北区八多町に属する。

ここ屏風溪の流れは、左右のきり立った河岸いっぱいである。秋から冬は、水の量も減って渡りやすいというか、登山がらくであるが、春・夏の水量の多いときは、水の中に一回や二回は、すべり込むことの覚悟がいる。

このの溪流は、六甲各地の渓谷にみられるような砂防ダムにコマ切れにされたり、流水によって六甲砂を押し流して川岸の美しさをさげられるというようなどころは見られない。そのため川底まで自然が残されている。

この谷間の流れは、透き通り、ハスの幾匹かの群が遊泳しているというのどかな風景が方ほうに見られる。そのほか背椎動物では、カジカの声が初夏には聞こえる。

六甲山系は、ずいぶん荒れてしまった。いまに残る文字通りの自然は、ここ屏風岩だけである。屏風岩溪谷を散策すると、かつての六甲の山なみは、このような豊かな樹相であったであろうかと考えながら、足はすすむ。

六甲山系は、あらゆる開発の名のもとに、種々の施設という美名のもとに破壊がすすんだのかと思うと腹もたつというものである。

ここは最後に残された秘境のことだけに、一木一草たりとも大切に残してかつての六甲を語る材料にしたいものである。



六甲最後の秘境、屏風岩には様々な植物の群生が見られる。

が、ほかの動物は少ない。

屏風谷は、花崗岩が谷間の部分だけ掘り取られ、文字通り急峻な崖をなしていて、樹林との諧調が生き生きと茂り、溪谷にせまって、われわれの歩行をこぼみ、絶えず四つばいで岩上にへばりついて爬行しなくてはすまない。そのためハイカーも少なく、いまだに自然破壊をまぬがれているのである。したがって自然を楽しむには、谷の清水の中に落ち込むことを覚悟しなくてはならない。

兩岸の樹々は、よく伸び川面を覆って昼なお暗いという状態で、湿度は高く、流れはときに広く、あるいは狭く、原生林あふれる景観が延々と六キロに及んで静かな流れが続いている。溪谷の岩上には、蘚苔類がおびただしく繁茂している。水のしぶきを受ける岩上には、春の訪ずれとともに、一面にダイモンジソウが生い茂り、十月に入るといっせいに清楚な二本の長い花びらが「大」

の字状に咲くのである。わたくしは、ここほどダイモンジソウの大群が延々と続くところを見たことがない。

流れの浅い瀬にはタニガワスゲ・ネコヤナギが一面に生える。この両種が川中に生え茂るといことは、自然が残り開発がすすんでいないことを証している。もし溪谷の近くの開発がすすむと、両植物は、いっせいに消えてしまう運命にある。この両種の永遠の運命を祈願して足を運んでいった。そこらあたりの高い岩壁には、イワタバコが群落をつくっている。

この兩岸樹林には、コナラ・アベマキ・イロハモミジ・シラキ・アカマツを主体とする林が茂り秋の紅葉は六甲随一である。その樹林中にはアリマグミの周三十センチ、高さ六メートルになるものがあって本種としては珍しい大木も見られる。山地樹下にはテイシヨウソウ・シユンジユギク・ツチアケビ・コウヤザサという草木と、木本類にはシロバナウンゼンツツジ・ヤマツツジ・ミヤコツツジ・モチツツジ・フジキ・タウヨウ・アオハダ・コハウチワカエデ・オオバズミ・タニウツギなどの成木が多く見られる。ことに晩春のツツジ類の開花時には、溪谷の色が変わる。

いま、屏風岩左岸の黒甲越、古倉山、金比羅山一帯をゴルフ場造成という申請が出ているということを六甲景観保護の主導者である多田繁次氏から承わった。事実同氏はゴルフ場禁止のために努力されており、一人でも多くの市民の参加応援をお願いしたい。六甲のたった一つの残された秘境、屏風岩の自然環境を永遠に残したいものである。



六甲山100コース

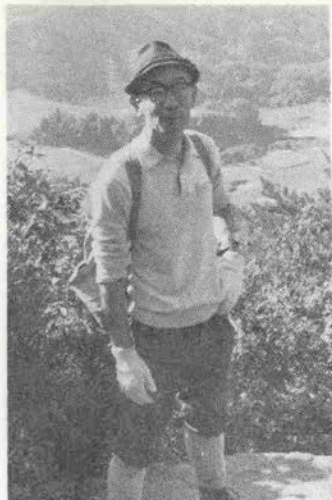
△その28▽

神鉄菊水山駅—菊水山—鍋蓋山—摩耶山—六甲カントリー駅

六甲ミニ縦走

村上

宏△六甲全縦市民の会会員・医師▽



菊水山への道にて筆者

神戸電鉄の菊水山駅から六甲全山縦走(全縦)コースに沿ってどこまで歩くかは足に聞いてくれ——わたしのではない、四人の同行者たちの足に、というデマカセなハイキング。以前、駅のすぐ下にかかっていた丸太の橋とあたりの眺めとの調和は絶妙だった。ハイカーはやせ型の人が多いため潰れずにすんでいたこの橋も、老朽化のために取り払われ、堅固な菊水山橋に生まれかわった。風情が無くなったと歎きながら渡る人もあるが、なにより安全第一である。ほどなくゴルフ場横の登り口に着く。ここは菊水山の表玄関であり、全縦コースの中でも指折りの急坂が山頂まで続く。なればそれほどでもないのだが、昨年真夏に全縦をした時には、さすがにこの登りはしんどかった。わたしの住む鈴蘭台と菊水山頂はゆるやかな舗装道路で結ばれ、元旦には初日出を迎える人の列が続くが、鈴蘭台から電車でわざわざ菊水山駅

まで下り、山頂を目指す人たちもいる。裏口や横口から山に登れますかってんだと顔に書いてあり、お医者様でも有馬(?)の湯でも治らぬ山キチどもとみてまちがいない。

「菊水山」の三文字を彫り込んだ石碑の後に聳えるバラボラアンテナは市内の随所から望見できる。山頂からの景観を楽しもうと地上へそと下ろしたリュックサックは一九五〇年頃の生まれ。六甲では最古参の部類だろう。迷医の縫合手術を受けることいくたび、まだ当分は余命を保ちそうだが、持ち主とどちらが先にボンコツになることか。ここから下りる城が越(じょうがごし)の名称は地図の上のみ健在で、人の口の上ることはない。全縦をする人はこらのような落差の大きい石段をていねいに降りること——宝塚までひざや足を痛めずに完走できるコツのひとつである。有馬街道をまたぐ六〇メートルの天王吊橋は、この街道を通る一日一万余千台の車からハイカーを守ろうと希った神戸市当局の悲願の結晶だ。

蒸し鍋の蓋そっくりの稜線をみせる鍋蓋山の前半は勾配の強いつづら折りが続く。山腹に巨岩があり、これが蓋のかどに当たる。ここから先はラクだ。広場ともいえないほどの平坦部に記念植樹の看板がひっそりと立ち、見晴らしも悪い。初めての人なら、鍋蓋山山頂と記した小さな板ぎれに気付かぬまま通り過ぎてしまいそうな特徴のない山だ。わたしのようなヤボが書かねば「六甲山



長さ60米の天王吊橋。菊水山から鍋蓋山へ行く途中にある。

100コース」ではだれも相手にしてくれないだろう。全縦コースにありながら無視されてはオナベがかわいそう、というのが今日のコースを選んだ理由である。

明らかに宝塚をめざしていると思われる全縦者たちが漫歩調のわれわれを追い越してゆく。わたしはそれとなく、顔色、足どり、装備を観察する。妙なクセがついてしまったものだ。神戸市と六甲全縦市民の会共催の全縦も昨今は過熱気味で、重大な人身事故が起こるのではないかと懸念されるようになり、主催側一同、事故対策のため



調査や討議を重ねてきた。過去八回、延数一万五千人が参加した六甲全縦市民大会では、幸い死亡者を出さずにすんだが、こわいのは虚血性心疾患、いわゆる心臓マヒである。わたしたちの知り得た六甲周辺におけるハイキングのさいの死亡事故(転落死などは除く)は六例であった。当日や前日に身体の自覚症状があったのにもかかわらず生命を失った例が多いのは残念である。わたし個人は全縦を「遊び」と割り切っている。完走できても自慢するほどのことではないし、途中でイヤになったらさっさと打ち切るのがよい。遊びにムキになることはない。余裕タップリでゴールへ着けるよう、ふだんから分割縦走で歩きなれておくのが全縦完走の基本であろう。東六甲の夜道で動けなくなった場合、その場で一夜を明かせるだけの装備は各自が準備しておくべきであり、この点で全縦は室内での遊びと本質的に違うということも心得ておきたい。今年の六甲全縦市民大会も大きな事故なしに終わるよう祈る。平素から信心薄き者に祈られては神様も迷惑かな?

今日の一行が歩いた大竜寺は東はだれかが本欄で紹介することだろうから、ここでは省略しよう。六甲カントリー駅付近の茶店へ着き、このペースでは宝塚到着は九時半頃と宣告したら、同行の皆さんはモウたくさんとのもうた。用意していたライトの電池も体力も節約——省エネ時代にふさわしい、のどかな「体育の日」であった。